

## ベテラン保育士が捉える子どもの育ちの変化 (2)

—— 3歳未満児の場合 ——

村上 智子・曾根 章友

### 1. 研究の背景

子どもを取り巻く社会が変化していく中で、子どもやその保護者、また、保育現場も変化しているのではないかと感じられる。そこで、現在の子どもや保護者の姿、保育現場の様子や取り組みを正確に把握し、これからの保育のあり方を模索していきたいと考えた。

### 2. 調査の方法

調査方法は曾根・村上の研究<sup>1)</sup>と同様であり、本論文は3歳未満児を対象としたものをまとめた。3歳未満児用の質問紙は資料1に示した。有効回答数は110、有効回答率は44.9%であった。

### 3. 集計結果と考察

#### 1) 回答者の基本属性

回答者は全て女性、平均年齢は50.0歳であり、保育歴の平均は29.2年であった。また、回答者の役職は園長・副園長21名 (19.1%)、主任42名 (38.2%)、主査5名 (4.5%)、保

育士23名(20.9%)、その他2名(1.8%)、無回答17名(15.5%)であった。

## 2) 子どもの変化時期について

何年ぐらい前から子どもの様子に変化していると思うか尋ねたところ、「5年前から」が7名(6.4%)、「10年前から」47名(42.7%)、「15年前から」31名(28.2%)、「20年前から」2名(1.8%)、「変化しているとは思わない」9名(8.2%)、無回答は14名(12.7%)であった。

## 3) 具体的な子どもの様子

質問紙の回答には対象児の年齢(月齢)を記入するようにしていたが、3歳未満児の場合、月齢によって発達に差があること、また、発達の個人差が大きいため、年齢に分けず集計した。

### (1) 基本的生活習慣の獲得

睡眠習慣に関しては、「夜型の生活をして生活リズムが乱れている」が43回答であった。以前に比べて、大人の生活は夜型になっており、その生活に子どもが合わせて子どもの生活も夜型化している。この夜型の生活リズムが心身に影響し、日中、保育所で友だちと関わりながら活発に活動して多くの経験をする時間帯に、「機嫌が悪い、集中できない、活発に活動できない子が増えた」という回答が13あった(表1)。

また、排泄習慣に関しては、排泄を知らせることができない、オムツを外すことができないなど「排泄の自立が遅い」が63回答であった。園では子どもの発達に合わせてトイレトレーニングを開始しても、家庭で失敗してお漏らしされるのを嫌ってオムツを使用するなど「保護者の理解と協力がなかなか得られない」ため、トレーニングが進まないという悩みを持っている保育士がいた。

表1 子どもの様子で気になること&lt;基本的生活習慣の獲得&gt;

(回答数)

睡眠	生活リズムの乱れ (夜型生活)	43
	生活リズムの乱れによる心身への影響	13
	お昼寝の寝つきが悪い、寝ない	3
	入眠時の習慣に関すること	3
排泄	排泄の自立が遅い	63
	排泄の自立が早い	3
食事	咀嚼力がない	20
	好き嫌いや偏食が多い	17
	食事のマナーが悪い	14
	食べる意欲・関心がない	10
	スプーンや箸を正しく持てない	7
	スプーンから箸への移行が遅い	5
	離乳食に関すること	6
	手づかみ食べを嫌がる	2
	手づかみで食べる	2
着脱	着脱の発達が遅い	8
清潔	清潔にしている、清潔の習慣を身につけている	5
	清潔にしていない、清潔の習慣を身につけていない	3

食事習慣に関しては、口に残る、飲み込めない、噛まずに飲み込む、固いものを食べられないといった「咀嚼力がない」が20回答、「好き嫌いや偏食が多い」17回答、自分で食べようとしない、食べさせてもらうのを待つ、食べ物への関心が薄い、食事を楽しみにしないといった「食べる意欲・関心がない」が10回答あった。その理由として、「子どもが好む、食べやすいものを、食べただけ与える」からと捉えている保育者がいた。

乳幼児期は、日々の生活を過ごす中で基本的生活習慣を身につけ、自律と自立を獲得していく時期であるが、その基本的生活習慣がなかなか身につけられないと多くの保育士は感じていた。特に、睡眠、排泄、食事といった、ヒトとして生きるための体の発達のための習慣が身につけていないことは、後の体の発達、さらには心の発達にも影響があるのではないかと危惧される。

## (2) 身体の発育

「体格が大きい・肥満」の子が増えたが21回答、「アレルギー・アトピー・喘息」の子が増えたが18回答あった（表2）。

表2 子どもの様子で気になること&lt;身体発育&gt;

(回答数)

体格	体格が大きい・肥満	21
	体格が小さい	4
体質	アレルギー、アトピー、喘息	18

## (3) 運動機能の発達

「運動機能の発達が早い」は12回答、「遅い」は13回答、「歩き始める時期が早い」は8回答、「遅い」は5回答であり、「早い」と捉える保育士も「遅い」と捉える保育士もいるようであった（表3）。しかし、寝返り、はいはい、つかまり立ち、伝い歩き、ひとり歩きといった「歩行までの発達が発達順でない」が21回答あった。また、「歩き方が不安定・転びやすい」は13回答、「転び方が下手で怪我をしやすい」が13回答など、歩行に関する発達について問題視している保育士の存在が確認された。これらの理由として、「はいはいを十分にしないから歩行が安定しない」と捉えているようであった。さらに、「歩きたがらない・長時間歩けない」は10回答であり、その理由として「車で移動する生活をしているため、歩く経験が少ない」と捉えていた。

このように、歩き方が不安定で上手に歩けず転びやすい、転び方が下手で怪我をしやすい、歩きたがらない、長時間歩けず座るといった幼児の姿から、ヒトとして生きるための体の機能に発育・発達していない幼児の姿が垣間見られる。体の機能が発育・発達しないと、積極的に身近な環境に働きかけようという意欲も育めず、さらに、探索活動の経験も十分にできない。この時期に体得すべき様々なことを体得していくことができないのではないかと危惧される。

表3 子どもの様子で気になること&lt;運動機能の発達&gt;

(回答数)

運動機能の発達が早い	12
運動機能の発達が遅い、低下	13
個人差が大きい	3
手先が器用	10
手先が器用でない	13
歩き始める時期が早い	8
歩き始める時期が遅くなった	5
歩き始める時期の差が大きい	4
歩行までの発達が発達順でない	21
はいはいや腹這い姿勢を嫌がる	10
歩くのが上手	2
歩き方が不安定(上手に歩けない、転びやすい)	13
転び方が下手(手が出ない)で怪我をしやすい	13
転んでも自力で起き上がれない	2
歩きたがらない、長時間歩けず座る	10
筋力が弱く姿勢を保つことができない	9

#### (4) 知的発達

3歳未満児でも、ひらがなや数字、英語に興味を持っており、読めたり、数えたりするなど、「言葉・数・文字に興味がある、獲得が早い」が63回答と多かった反面、「言葉の意味を知らずに使う、年齢にそぐわない会話をする」という回答も11あった(表4)。また、「テレビやゲームの知識は多い」が16回答あった反面、「絵本・紙芝居・手遊びに興味がない、それらからの知識が少ない」が5回答と、知識を得るものに偏りがある様子が伺えた。保護者の意識は、保育士の記述に「基本的な習慣を身につけさせるより知的発達への関心のほうが高い」とあるように、知的発達の方へ片寄っているようである。また、子どもたちはテレビなど一方向の受動的な媒体に接することに慣れており、人とコミュニケーションをとりながら絵本・紙芝居・手遊びなどを楽しむ経験が少なくなっているのかもしれない。

表4 子どもの様子で気になること&lt;知的発達&gt;

(回答数)

言葉、数、文字に興味がある、獲得が早い	63
言葉の獲得が遅い	9
個人差が大きい	7
言葉の意味を知らずに使う、年齢にそぐわない言葉を使う	11
テレビ番組やゲームの話や知識が多い、真似をする	16
絵本や紙芝居、手遊びに興味を示さない	5

## (5) 情緒面

引っこく、噛みつく、押す、物を投げる、怒る、泣く、乱暴な言葉を使うなどの「暴力的な行為をする」の49回答、「感情の起伏が激しい」の8回答など、自分の感情を抑えることができない子や、「感情表現が乏しい・無表情」の27回答、「思っていることの逆の行動をする」の4回答など、感情を適切に表現できない子が増えたとの回答が多くあった(表5)。これら、情緒が安定しなかったり、感情表現が適切でないことは、生活リズムの乱れによる生体リズムの乱れや、保護者との触れ合い不足による愛着関係が形成されていないことが起因すると考えられる。

表5 子どもの様子で気になること&lt;情緒面&gt;

(回答数)

情緒不安定	12
暴力的な行為をする、パニックになる	49
自己中心的な行動をする	10
感情の起伏が激しい	8
自己主張をする	5
感情表現が乏しい・無表情	27
思っていることの逆の行動をする	4

## (6) 社会性

同・異年齢児と一緒に遊ぶことができるなど「子ども同士で関わりが持てる」が10回答あった反面、物の貸し借りができないなど「他児との関わりができない・一緒に遊べない」が19回答、「他児と共感できない」が6回答と多くあった(表6)。また、「大人との

関係を求める」が13回答あった。「他児に興味を示さない・協調性に欠ける」が14回答、「マイペースで周囲の様子を受け入れない」が8回答、「他児との関わりが乱暴な行動でしかできない」が19回答あった。

表6 子どもの様子で気になること&lt;社会性&gt;

(回答数)

コミュニケーション	他児との関わりができない、一緒に遊べない	19
	他児と共感できない	6
	子ども同士で関わりが持てる	10
	大人との関係を求める	13
他者理解	他児の存在に気づき、やりとりができる	3
	他児に興味を示さない、協調性に欠ける	14
社会的事象の理解	マイペース、周囲の様子を受け入れない	8
	人や場面で行動を使い分けている	6
社会的不適応	他児との関わりが乱暴な行動でしかできない	19
	引っ込み思案	6
道徳性	社会のルールやマナーが身に付いていない	7

3歳未満児は、他児を意識し始め、少しずつ関わり合いながら人間関係を構築させていく時期である。特に保育所に通う子どもは、毎日、他児との集団生活をしている。他児に興味を示さない、大人との関係を求める幼児は、保護者との愛着関係が希薄で、その不安定さを保育士に求めて独占しようとしているのではないかと推察される。

### (7) 遊び

土や砂、水、草花や虫など「自然物で遊ぶことを嫌う」が37回答あり、その理由は「汚れることを嫌うから」と保育士は捉えていた(表7)。また、散歩をしてもすぐにおんぶやだっこ、散歩車に乗りたがるといった「すぐに疲れて歩きたがらない」が17回答、「自分から遊ばない、遊びを作り出せない」が11回答、「興味がある遊びしかしない」が7回答あった。

表7 子どもの様子で気になること&lt;遊び&gt;

(回答数)

自然物での遊びを嫌う	37
外遊びをしない	3
散歩で歩きたがらない	17
自分から遊ばない、遊びを作り出せない	11
興味がある遊びしかしらない	7
じっくりと遊べない	6
戦いごっこ、攻撃的な遊びばかりする	3
テレビやビデオを長時間見る	6

車中心の生活環境による交通事故<sup>2)</sup>や幼い子どもに対する犯罪の増加<sup>3)</sup>によって、子どもが安全に安心して外遊びをする場所や機会が失われていった。そのため、現在の子どもたちは室内のきれいな環境で遊ぶことが多く、外で自然物を使って汚れながら遊ぶ機会が少ないため、汚れることを極端に嫌うようである。また、自然物での遊びは、触覚・聴覚・嗅覚などの五感を使い、遊びの経験者と一緒に様々な遊びを展開させていかなければ遊びこむことはできない。このような経験が少ないため、自分から遊ぶことができない、遊びのレパートリーが少ないなど、多様な環境の中で、その環境に幼児が積極的に関わりながら多様な遊びをしていくことができないのではないかと懸念される。

#### 4) 保護者に対して感じていること

保護者に対しては、マナーが悪い・社会性に欠ける・自己主張をする・自己中心的・決まりが守れない・神経質・コミュニケーションがとれないなど「幼児化している」という回答が52と最も多かった(表8)。また、「自分が第一の生活をし、子どもと向き合わない」が25回答、「大人中心の生活をして、子どもの生活リズムが崩れている」が9回答であった。



表8 保育士が保護者に対して感じていること (回答数)

保護者が幼児化している (社会性に欠ける、自己中心的など)	52
自分が第一の生活をする、子どもと向き合わない (放任)	25
大人中心の生活をする、子どもの生活リズムが崩れている	9
保育所に子育てを任せる、要求が多い、親の役割を果たさない	17
保育所の子育て支援に気づいてもらえない	8
子育てを自分だけでしようとする、他人のアドバイスを受け入れない	8
子育てに不安を感じ、子どもと上手く接することができない	4
子どもの言い分を全て受け入れる、善悪のけじめがつけられない	16
育児の方法を知らない、養育力 (育児能力) が低下している	11
子どもとの接し方・関わり方・遊び方を知らない	7
子どもの発達をふまえない、子どもを大人扱いする	4
実際の子どもの姿をみていない	2
子どもに教えるべきことを教えない	2
親が忙しくて余裕がない、疲れている	5
子育てに熱心な人と無関心な人との差が大きい	4
仕事と子育てに頑張っている	4
保育所に対して理解してくれている、協力的である	2

「保育所に子育てを任せてしまい、親の役割を果たさない」が17回答、「保育所の子育て支援に気づいてもらえない」が8回答であり、育児にあまり積極的ではなく、保育士からの様々なはたらきかけに関心を示さない保護者の姿を感じる保育士もいた。また、「子どもの言い分を全て受け入れて、子どもに対して善悪のけじめがつけられない」が16回答、「育児方法を知らない」11回答、「子どもとの接し方・関わり方・遊び方を知らない」が7回答など、養育力が低下していると感じている保育士も多かった。

「保護者が幼児化している」が多く、さらに、「子育てを自分だけでしようとする、他人のアドバイスを受け入れない」が8回答とあり、「保護者にどのように関わって、共に子育てをしていく関係を構築していけばいいのか悩む」保育士が多くいた。「子どものような親を子育てしながら大人になっていく手伝いをするのが保育者である」との回答もあり、保護者支援も保育士の役割であるという認識があった。また、「親が忙しくて余裕がなく、疲れている」ため、「今の社会では子育ては大変なので、保育所で少しでも手伝い

たい」と理解を示している一方で、「子育て支援や保育サービスが充実するほど、親は子育てから遠ざかる」とも感じており、多くの保育士がこのジレンマを抱きながら保育を行っている」と推察された。

### 5) 保育に困難さを感じる理由

保育に困難さを感じている理由を問うと、保護者に関しては、園側の連絡や要望などを伝えようとしても受け止めてもらえないといった「幼く常識を知らない、社会性が低い」が17回答あった(表9)。また、保護者と一緒に子育てをしようとして働きかけても「協力や理解、共感が得られない」が8回答、「保育所任せにする」が10回答あった。背景には、「子育てに関心がない」、「子育てに関する知識や経験が不足している」、「家庭環境や生活にゆとりがない、多様な家庭環境がある」ことが影響していると捉えているようであった。

表9 保育に困難さを感じる理由

(回答数)

保護者	保護者が幼く常識を知らない、社会性が低い	17
	家庭の協力や理解、共感が得られない	8
	子育てを保育所任せにする	10
	子育てに関心がない	5
	子育てに関する知識や認識が不足している	8
	子どもに関する対応が適切でない	5
	家庭環境や生活にゆとりがない、多様な家庭環境がある	12
子ども	保育困難な子どもが増えた	13
	年齢に応じた発達をしていない	6
	低年齢児・長時間保育などによる情緒不安定、問題行動	7
保育士の労働環境	保育士の人数不足	5
	保育士の能力不足	3
	低年齢児、途中入園児、障害のある子の対応困難	6
	保育業務の多様化	1
社会背景	子育てに関する社会的背景の変化	9

子どもに関しては、気になる子、落ち着きのない子など「保育困難な子が増えた」が13回答、「年齢に応じた発達をしていない」が6回答、「低年齢児からの保育や長時間の保育によって情緒不安定になったり問題行動をする」が7回答あった。「年齢の低い子ほど早朝保育、延長保育、休日保育を利用する」というのは、多くの保育士の言葉である。

保育士の労働環境に関しては、「保育士の人数不足」が5回答、「保育士の能力不足」が3回答、「低年齢児、途中入園児、障害のある子への対応困難」が6回答あった。また、社会背景としては、家庭環境や事情の多様化、子育て情報の氾濫、少子化や自然環境の減少などの「子育てに関する社会的背景の変化」が挙げられていた。

#### 6) 園、もしくは個人の対応

これまで述べてきた子どもの様子の変化や保育の困難さに対して、保護者に向けては育児に対する理解と協力を得るために、「連絡帳や個別面談などを通して家庭との連絡を密にする」が24回答、おたより・保護者会・講演会などの「子育ての意識を深めてもらうための取り組み」が15回答、子どもの成長の様子を話したり、親子行事や保育参加をするなどの「子どもに興味を持つような話をしたり、行事を企画する」が14回答、「保護者との信頼関係を崩さないように対応する」が15回答あった(表10)。また、子どもに向けては、スキンシップを取りながら、「個々を大切にされた保育をする」が15回答あった。

その一方で、園内の取り組みとして、保育士は様々な事例に対して「園全体で対応を検討する」が14回答、保育士自身が「園内研修や講演会参加で自己研鑽をする」が10回答、「保育士間で意思統一、共通理解を図る」が7回答あった。さらに、園全体や保育室の「物的環境を整える」、人的環境である「保育士の人数を増やす」、「子どもの姿に沿った保育を計画・実践する」、「外部機関と連携をとる」など、園の保育体制や環境の整備などで保育の充実を図っているようであった。

表10 園、もしくは個人での対応

(回答数)

保護者に対する 取り組み	連絡帳などを通して、家庭との連絡を密にする		24
	子育ての意識を深めてもらうための取り組みをする		15
	子どもに興味をもつような話をしたり、行事を企画する		14
	保護者との信頼関係を崩さないように対応する		15
子どもに対する 取り組み	個々を大切にされた保育をする		15
園内における 取り組み	保育士 の研修	園全体で対応を検討する	14
		園内研修、研修会、自己研鑽をする	10
		保育士間の意思統一、共通理解を図る	7
	環 境 の充実	物的環境を整える	3
		保育士の人数を増やす	3
		子どもの姿に沿った保育を計画・実践する	5
		外部機関と連携をとる	6

#### 4. ま と め

本調査結果の子どもの育ちの変化をみていくと、ヒトとして生きるための体（機能）、人として生きるための心ともに、保育士が思うようには発育・発達していない姿が垣間見られる。しかし、このような子どもの育ちの変化は、実は、親の生活や育児意識の変化によるものである。そして、親の変化は、社会の変化によるものである。現在の親世代は、共働き世帯の増加<sup>4)</sup>、ひとり親世帯の増加<sup>5)</sup>など生活状況の変化によって、時間的・精神的に子育てに向かい合うことができなかつたり、三世帯世帯の減少<sup>6)</sup>で、子育ての知恵の伝承が十分でなかつたり<sup>7)</sup>、きょうだいの数が少ない<sup>8)</sup>ことによって、子育てに関する意識を育んだり経験を得にくい環境にある。

そのような子どもや保護者に対して、保育所における保育や保護者支援はますます重要視されている。平成11年改訂の保育所保育指針には、それ以前になかった「保育所における子育て支援及び職員の研修など」の項目が、章立てで第13章に新規に追加された。さらには、平成20年告示の保育所保育指針においては、第6章に「保護者に対する支援」、第7章に「職員の資質向上」が独立の章立てで示された。今後も、社会の変化によって、親

の育児意識も変化し、子どもの育ちも変化し続けることが予想される。保育士は、その時々子どもや保護者の姿を正確に把握し、常に自己研鑽に努め、保育や保護者支援につながることを、今後も求められるだろう。

本調査では、保育士の長年の感想を自由記述式で回答を求め、それを集計した。今後は、本調査の結果をもとに項目を絞り、発達の尺度を定めて、その発達の到達度をもとに子どもたちの育ちの変化を読み取るといった、より精度の高い結果を得ていきたいと考えている。

#### 【参考文献】

- 1) 曾根章友・村上智子(2009)ベテラン保育士が捉える子どもの育ちの変化(1)－3歳未満児の場合－ 山形短期大学紀要第41集 pp.77～100
- 2) 日本子ども家庭総合研究所編(2008)日本子ども資料年鑑2008年版 KTC中央出版 p.141 厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」より出典資料
- 3) 平成19年版 犯罪白書 第5編第1章第6節1
- 4) 2)と同じ p.64 厚生労働省大臣官房統計情報部「国民生活基礎調査」より出典資料
- 5) 全国保育団体連絡会／保育研究所編(2008)保育白書2008年版 ひとなる書房 p.9 総務省統計局「労働力調査特別調査(S.55年～H.13年)」「労働力調査(H.14～)」より出典資料
- 6) 内閣府 平成19年度版 国民生活白書(2007) p.30 4)と同じ出典資料
- 7) 6)と同じ p.40 内閣府「国民生活選好度調査」より出典
- 8) 2)と同じ p.38 2)と同じ出典資料

#### 【謝辞】

本調査にご協力いただきました、山形県内の保育園に勤務される先生方に心より感謝申し上げます。

#### 付記

本論文は、日本保育学会第61回大会(2008年5月)において発表したものをもとにしている。

(資料1)

— 子どもと保護者、保育現場に関するアンケート（幼、1、2歳児版） —

本学（H9年）子どもを保育士として受け入れた保育士は、今を過去の保育士（1）と自己認識が化しているのではないかと感じていた。そこで、現在の子どもと保護者の姿、保育現場の様子や保育者の生活環境に配慮し、これからの保育者の姿や働き方について広くアンケートを実施した。

アンケートは、2014年12月24日（金）の夜から保育士に、アンケート回答者の匿名を完全に行うよう、大変ご協力もいただきました。回答は15日より毎日（木）まで行われていた。

山形短期大学子ども学科 講師 池田 友子  
 12月29日

1 アンケート回答者（あなた）についてお尋ねします。

- ・ あなたの年齢と性別をお知らせください。 (年齢) (男/女)
- ・ あなたの保育士経験の有無をお知らせください。(経験年数) (保育所) (保育園) (児童館)
- ・ あなたの保育現場をお知らせください。 (年齢)

2 日々働く現場から子どもの様子が変化していると感じますか？以下を選択して○をつけてください。

正解がある。 (受取の前から) (受取の前から) (受取の前から) (受取の前から) (受取の前から)

3 保育をしていく子どもの様子が気になることや、昔の子どもと現在の子どもの様子の違い（良い面、悪い面ともに）はありましたか？項目に分けて、ご記入ください。

<基本的な生活習慣の獲得> (記入例) 挨拶を知らなかったりできなかったり。(2歳児)

<身体の変化> (記入例) 以上で済むようになったり多くなった

<運動遊びの発達> (記入例) 指先を器用なるとできなかったり。(1歳児、男)

池田もこ(記入者)が撮影した写真。

「質問1」

<知的発達> (記入例) 30歳以上の女性のことが多くなっていることだ。

<情緒面> (記入例) 子どもの表現が以前より多い。他の子どもと比べて先生の目がよくつく。

<社会化> (記入例) 他のお客に興味を示す人がいる。

<遊び> (記入例) 最近、1人で遊ぶ子どもが増えているが、他のお客が遊ぶところへ行く。

4 現在、保育に困難さを感じることはありますか？それなぜですか？

5 困難さを感じていることに対して、園、もしくは個人で、何か対応をしていますか？

6 現在の保認さについて、どのように感じているのでしょうか？

ご回答ありがとうございました。

